

新任校長紹介

尾道福祉専門学校



くどう ひろみち
工藤博道

私は、平成29年3月31日付けで広島県を退職し、4月1日付けで尾道福祉専門学校校長に就任した工藤博道と申します。

広島県では、広島県立技術短期大学の校長を最後に職業能力開発一筋に35年間努めて参りました。そして現在、尾道福祉専門学校で再び人材育成に関わることになりました。

簡単にプロフィールを紹介させていただきます。

生まれも育ちも尾道です。県に勤めていた時は、広島や三次に通っていただけで、通勤時間が2時間近くかかっていました。現在は15分と夢のようです。

趣味は20年近くゴルフをやっていましたが、現在変形性膝関節症のため断念しています。 もう一つは釣りですが、これも約15年前に娘から「父さんと行って釣れないから面白くない」の一言で断念しました。現在は専ら2歳になる孫の守りに生き甲斐を見出しています。

最後にお願ひがあります。喫緊の課題である入学生の確保に奔走しています。どうか介護福祉士の卵をご紹介ください。2年間責任を持って育て、立派な雛鳥として送り出すことをお約束します。今後とも本校をよろしくお願ひいたします。



平成29年度のオープンキャンパス

7月8日(土)・22日(土) 8月9日(水)・26日(土)
9月9日(土) 11月11日(土)
2月2日(土) 3月24日(土)

高校生、受験生、そして友達や保護者の方もぜひ一緒にご参加ください。

体験授業も開催します。

お問い合わせ / 0848-37-2222



発行
社会福祉法人
尾道さつき会
広島県尾道市久保町1786番地
TEL (0848) 37-7272
FAX (0848) 37-9610
http://www.satukikai.com

「児童発達支援センターあいあい」三成に OPEN

～名称を変更し定員を増やす～

児童発達支援センターあいあい 村上 美恵子



▲新しい園舎の外観

2017年4月「あいあい」は「児童発達支援センターあいあい」と名称を改め、美ノ郷町三成に移転しました。4月5日、新入園児18名を迎え、総勢36名の児童で新年度をスタートしました。

今までは、自然あふれる木ノ庄で児童の通所支援事業(児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援)、併せて相談支援事業、療育支援事業(県委託)を行ってまいりました。



▲ふんわりふわふわ、とんでいけ～!

近年、児童発達支援や放課後等デイサービスのニーズは高まって来ています。不足している通所支援事業の受け皿を拡充し、サポートを必要としているお子さんやそのご家族が、将来への見通しをもって安心して生活できることを目的に、移転整備をする運びとなりました。

移転後は、児童発達支援事業の定員を23名から30名に増員、放課後等デイサービス事業の定員は10名で月曜日から土曜日が開催日となりました。開放感あふれる中庭や遊戯室で、子どもたちは「わくわく、ドキドキ!」と心も身体も弾ませて遊びや活動を楽しんでおり、新しい園舎に大満足の様です。これからは、買い物を含めたクッキング活動や地域探検といった地域の資源を活用した活動にも取り組んでいきたいと考えています。

4月2日に行われた内見会では、関係機関や地域の方々の来場が大勢あり、療育支援に対する期待感を肌で感じる機会となりました。「身近な地域で気軽に専門的な支援を受ける」という児童発達支援センターの機能を強化させていくためにも、行政・医療・教育・福祉など関係機関との連携を一層強め、「信頼され選ばれるセンター」となるよう、職員一同力を合わせ取り組んでいきたいと思っています。どうぞ、お気軽にお越しください。



▲ゆらゆらぼ～ん。もう1回!

県共同募金会から助成金

平成28年度NHK歳末たすけあい助成金の交付を受けました。

・児童発達支援センターあいあい

12人乗り幼児専用車

「キャブワゴン」が納車されました。



・私たちの家

10人乗りワゴン車

「キャラバン」が納車されました。



看護職員(正職員) 介護職員(パート職員)等

募集中

※年齢不問、その他詳細については下記にお問い合わせください。

担当者: 総務部 山根
(TEL)0848-37-7272

寄付者一覧

(2017年1月～2017年4月・順不同・敬称略)

<寄付金> 福山市第20区児童民生委員協議会
元祖焼肉えひめ屋 水戸川賢造 木村裕子 石川秀樹 北原恵子
林優子 國貞峯子 河井佐利 加登谷カナ子
石川豊 櫻木弘起

<寄付物品> 広島電鉄(株) 深川医療器(株) 田井京子 安川美帆 北川直枝

編集後記

今年度もたくさんの新しい取り組みが始まり、どの記事を書きようか悩まされた。今度も皆様にさつき会の取り組みを分かりやすく伝えられるよう工夫していきます。(M.O)

台湾を訪問し国際交流 ～日本の介護予防を紹介～

特別養護老人ホーム星の里 村上 佳代



▲左から平石理事長、林台中市副市長、村上、日台医療福祉文化交流支援機構の笹井代表

4月28日、平石理事長と台湾台中市を訪問してきました。目的は、朝陽科技大学のシルバー産業国際研究会での講演と林台中市副市長との面会です。

現在の台湾は、徐々に高齢化率(12%)が高くなり介護の問題に直面しつつある状態です。そのため、日本の介護保険制度や介護を学び、参考にしたいという考えがあります。今回依頼された講演内容も「日本の介護予防について」です。日本の介護保険の仕組みや、星の里で取り組んでいる介護予防のためのノルディックウォーク「尾道あるこーかー」の活動を紹介しました。

台中市副市長との面会では、「台中市が介護の仕組みを作るために尾道市との交流をしていきたい」と話があり、日本の介護への関心の高さを感じました。

台湾は日本の介護保険の課題を分析して介護予防に取り組んだり、大学と企業が研究をして先進的なデイサービス運営したりしています。まだ十分な制度が作られていない中で、先進技術や外国のノウハウを積極的に取り入れ、高齢化社会を乗り越えようとする勢いを感じました。

早速、5月13日に台中市の副市長の尾道市訪問があり、5月16日、17日に大学院生の施設訪問を受け入れました。今後も国際交流をすることで私たちの介護を見直し、より質の高いサービスを目指していきます。



▲シンポジウムで話をする平石理事長

「ワークス福山」開所

～障害者の就労をサポート～

ワークス福山 山口幸太郎

5月1日、尾道さつき会で初めて障害福祉サービス事業の就労継続支援A型事業を開始しました。

A型事業とは、利用者と事業所との利用契約だけでなく、雇用契約を結び最低賃金を保障するなど、労働関連法規が適用され、必要な収益の確保と経営の継続が求められます。

所在地は福山市引野町で、尾道さつき会として初の福山進出となります。作業内容は「ワークスさつき」で取り組んできた福祉用具の消毒事業で、主に介護用ベッドとマットレス関係が中心です。消毒事業は高齢化社会の進行に伴い毎年増え続けており、新たな拠点作りが必要となったため、今回の事業展開をする運びとなりました。

開所式には福山公共職業安定所や特別支援学校等の関係団体も出席。福祉用具関係企業の深川医療器株式会社様からは「強電解生成装置」、株式会社ニシケン様からは「運搬用台車」の寄贈があり、感謝状の贈呈も行いました。

ワークス福山は多くの方の支援により、温かく見守られての出発ができました。今後、福山の地で障害者の就労支援に努力してまいりますので、よろしくお願いします。



▲施設の外観



▲感謝状贈呈



▲作業風景



児童デイサービス スッカ Sukha は、尾道さつき会が広島市で運営する、児童発達支援・放課後等デイサービス事業を提供する事業所です。障害特性を理解し、特性に配慮した支援を提供する中で、第一に「安心して通える場所であること」を目指し、「自分でわかる・自分でできる」喜びの中で自己肯定感をしっかり育てていきたいと考え、日々の療育を提供しています。4月からは新たにスッカ梅が台を新設しました。

児童デイサービス スッカ Sukha
安心して通える場所を目指して

村山 知美

Q1 どんな仕事をしていますか？

通ってくる子どもたちは発達に凸凹がある子どもたちです。一人ひとりに合わせた環境や活動を用意し、得意なところは伸ばし苦手なところはどう支援するかを考え、安心を基盤に成長を促していけるようにと日々の療育を行っています。また、保護者の思いに寄り添い、家庭で安心して子育てができるようお手伝いしていくことも大切な仕事の一つです。

広島市の支援者の質を高めていけるよう、スッカ主催で「自閉症サポーター講座」や「感覚統合研修」なども行っています。

Q2 仕事をするうえで大事にしていることは何ですか？

子供たちが自分の持っている力を生かし、より自律的に生活できるよう支援することに情熱を持ち続けることです。専門的な知識を学び技術をより高めていくことや、将来を見据えて一人ひとりの今の支援を考えていくことに終わりはありません。日々勉強、日々研鑽の気持ちを与えてくれる子どもたちに感謝しています。



大きなアンパンマンを作ったよ



先生とアラモデル作りに挑戦

23年間にわたり習字活動を指導

～引退した講師に感謝状を贈呈～



▲感謝の意を込めて



▲筆を追う姿は真剣!

むかいしま作業所 中重 雄太
5月2日、むかいしま作業所は長年習字の講師を指導していただいた村上定先生に感謝状を贈呈しました。村上先生は23年間にわたって講師を務められましたが、3月末をもって引退されました。

村上先生からは活動を通じて利用者さん一人ひとりの表現を引き出すこと、仕上がった作品1枚1枚を最後まで大切に生かすことなどを教わりました。また、熱心に指導される姿からは、利用者さんや作品に対する大きな愛情を感じました。

贈呈式には平石理事長や保護者の参加もあり、むかいしま作業所らしい賑やかであたたかな式となりました。



23年間ありがとうございました

MBAに挑戦

～特例外部研修制度を利用して～



▲授業の様子

総務課 長尾 浩明
県立広島大学MBAに通いはじめて2か月が過ぎました。

クラスメイトは25名で、平均年齢は41歳、業種は金融業・サービス業・製造業などさまざまです。

現在は週3回程度学校に通い、基礎科目のビジネスリーダーシップ、アカウントティング、ビジネス統計等を学習しています。

MBAのクラスで私一人しかいないものがあります。それは特例外部研修制度という法人の制度で通学していることです。クラスメイトにこの話をすると「いい会社だね。羨ましい」「バブル期ならともかく、今の時代そんな投資をしてくれる会社はないよ」と言われます。

まだまだ始まったばかりですが、自身の能力を高め、法人の持続的な発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。

*MBAとは…経営専門職大学院のことであり、マネジメントに関する高度な知識・能力を備えたプロフェッショナル人材(高度専門職業人)の養成を目的とする大学院です。